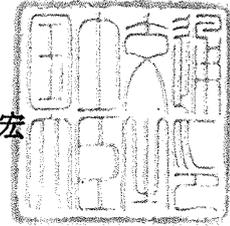


認 定 書

国住指第 3425 号
平成 27 年 1 月 29 日

積水化学工業株式会社
代表取締役社長 根岸 修史 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060WL-0789

2. 認定をした構造方法等の名称

バスダクト・ケーブル・電線管／ロックウール保温板・黒鉛混入水酸化アルミニウムシール材・黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス充てん／壁準耐火構造／貫通部分

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

バスダクト・ケーブル・電線管／ロックウール保温板・黒鉛混入水酸化アルミニウムシール材・黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス充てん／壁準耐火構造／貫通部分

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	矩形
	面積	0.6m ² 以下
占積率 (開口面積に対するバスダクト・ケーブル・電線管の断面積の総合計の割合)		23.3%以下
貫通する壁の構造等		両面強化せっこうボード重張軽量鉄骨下地間仕切壁(準耐火構造(60分))又は建築基準法第2条第七号の規定に基づく耐火構造(60分) 厚さ100mm以上 ただし、中空壁の場合は、鋼製又は壁を構成する材料と同等の材料による開口補強材を設けること

3. 主構成材料の仕様 :

主構成材料の仕様を表2に、バスダクト・ケーブル・電線管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項目		仕様	
耐熱シール材	材料	黒鉛混入水酸化アルミニウムシール材	
	組成 (質量%)	組成は企業秘密とさせていただきます	
	密度	1.0g/cm ³ 以上	
	充てん量	隙間が無いように密に充てん (バスダクト・ケーブル・電線管と仕切板との隙間(クリアランス10mm以下)に奥行き30mm以上、密に充てん)	
仕切板	表面化粧材	材料	表面化粧ロックウール保温板
		厚さ	47mm以上
		施工条件	バスダクト・ケーブル・電線管と仕切板との隙間(クリアランス)10mm以下
	基材	材料	あり又はなし(ありの場合:①~④の一) ①アクリル系樹脂 ②ウレタン系樹脂 ③アクリル系樹脂・ウレタン系樹脂の混合物 ④エポキシ系樹脂
		塗布量	1面あたり1.5kg/m ² 以下(両面又は片面)
		材料	ロックウール保温板(JIS A 9504)
		厚さ	47mm以上
熱膨張性シート	基材	密度	160(±16)kg/m ³ 以上
		材料	黒鉛含有ブチルゴムシート裏張アルミニウムはく張ガラスクロス
		寸法	総厚さ2.09mm以上 幅50mm以上(かぶり寸法:電線管側30mm以上、ケーブル側20mm以上)
	シート	使用箇所	鋼製電線管端部
		材料	アルミニウムはく張ガラスクロス
		厚さ	0.09~0.25mm
		組成 (質量%)	黒鉛含有ブチルゴム 組成は企業秘密とさせていただきます

表3 バスダクト・ケーブル・電線管の仕様

項目		仕様			
バスダクト	材料	バスダクト (JIS C 8364)			
	導体の断面積	1本あたり	2400mm ² 以下		
		総合計	59700mm ² 以下		
	導体の種類	JIS C 8364に規定する材料(アルミニウム、銅等)			
	総有機量	22.8kg/m以下			
	絶縁体	JIS C 8364に規定する材料 (ポリエチレン、ポリエステル等)	厚さ	0.75mm以下	
	外箱(ダクト)	鋼、アルミニウム、銅等			
ケーブル	導体(又は芯線)の断面積	1本あたり	150mm ² 以下		
		総合計	1103mm ² 以下		
	導体(又は芯線)の種類	銅、ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質			
	総有機量	23.4kg/m以下			
	絶縁体	ポリエチレン系	厚さ	2.0mm以下	
		塩化ビニル系			
		ポリオレフィン系			
ゴム系					
介在(円形に調整する充てん材)	紙、ジュート、又はポリオレフィン				
シース	ポリエチレン系	厚さ	1.5mm以下		
	塩化ビニル系				
	ポリオレフィン系				
	ゴム系				
電線管	樹脂製	材料	合成樹脂製可とう電線管 (JIS C 8411)		
		種類	CD管、PF管		
		外径	φ48mm以下		
	鋼製	材料	鋼製電線管 (JIS C 8305)		
		呼び方	G16~G70	C19~C75	E19~E75
		外径	21.0~75.2mm	19.1~76.2mm	19.1~76.2mm
		厚さ	2.3~2.8mm	1.6~2.0mm	1.2~1.8mm
		長さ	250mm以上		

4. 副構成材料の仕様 :

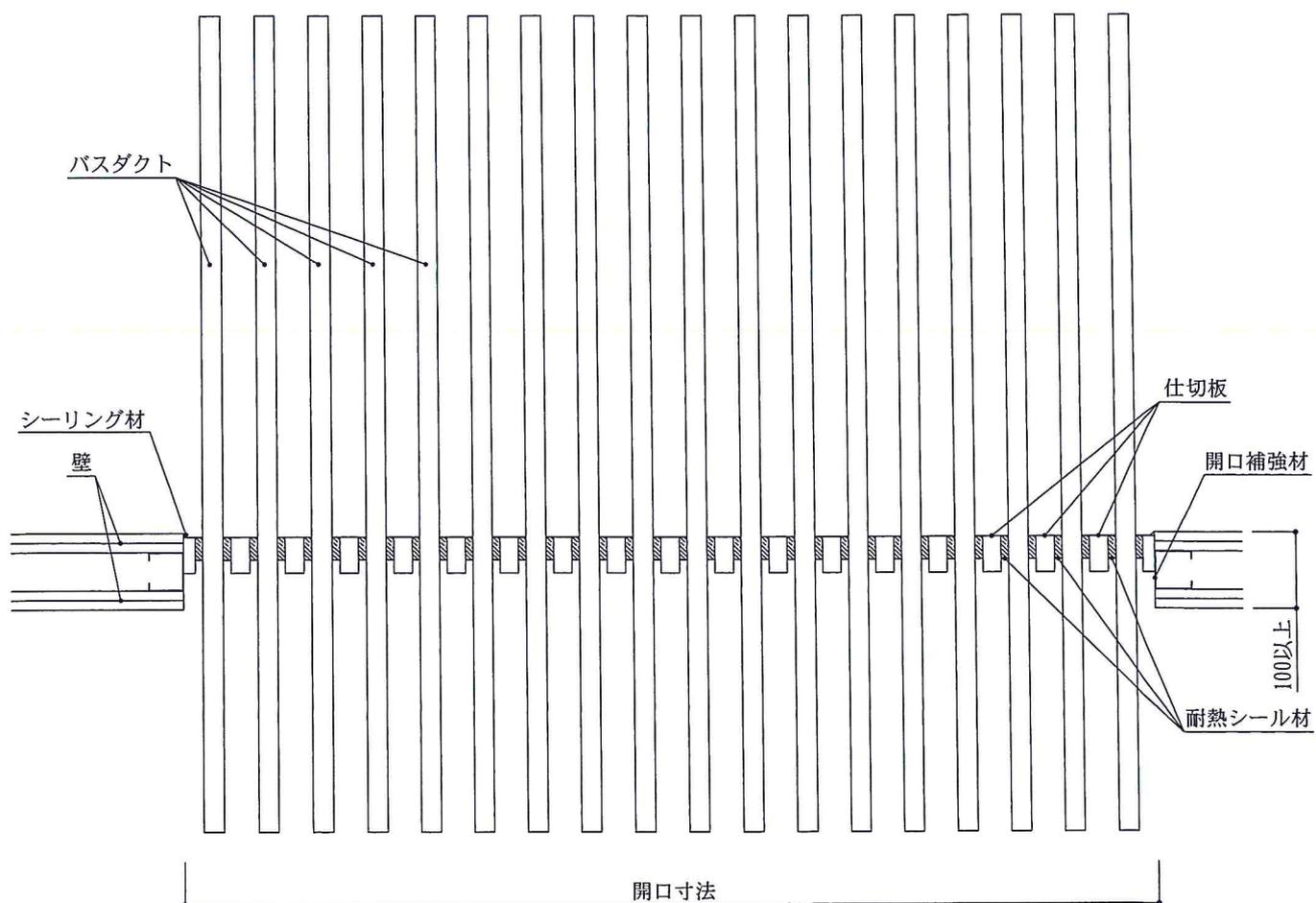
副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項目	仕様	
ブッシング	材料	あり又はなし(ありの場合 : 以下の材料) 鋼製電線管用の付属品(JIS C 8330 : 絶縁ブッシング2号)
	寸法	外径φ79mm以下、長さ49mm以下、厚さ8mm以下
熱膨張性シート固定材	材料	①又は② ①被覆付鉄線 ②銅線
シーリング材	材料	建築用シーリング材(JIS A 5758) 種類 : ①又は② ①変成シリコーン系樹脂 ②シリコーン系樹脂
	使用箇所	躯体(壁)と仕切板の接合部(片面側)
離型処理材	材料	あり又はなし(ありの場合 : 以下の材料) テープ(布製等)
	厚さ	0.31mm以下

5. 構造説明図 :

構造説明図を図1～図3に示す。



B-B 断面図

図2 構造説明図

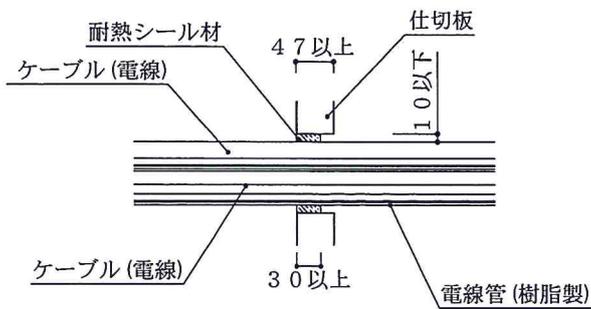
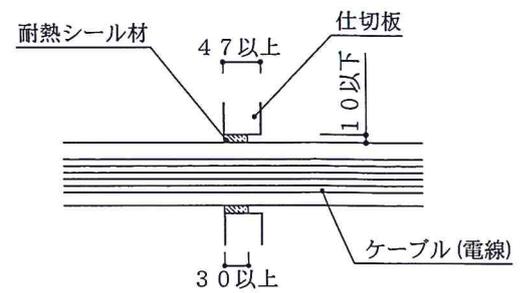
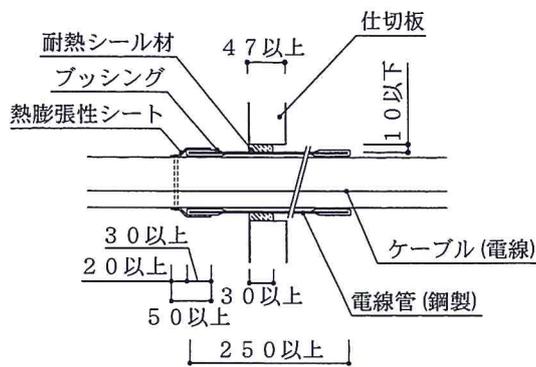
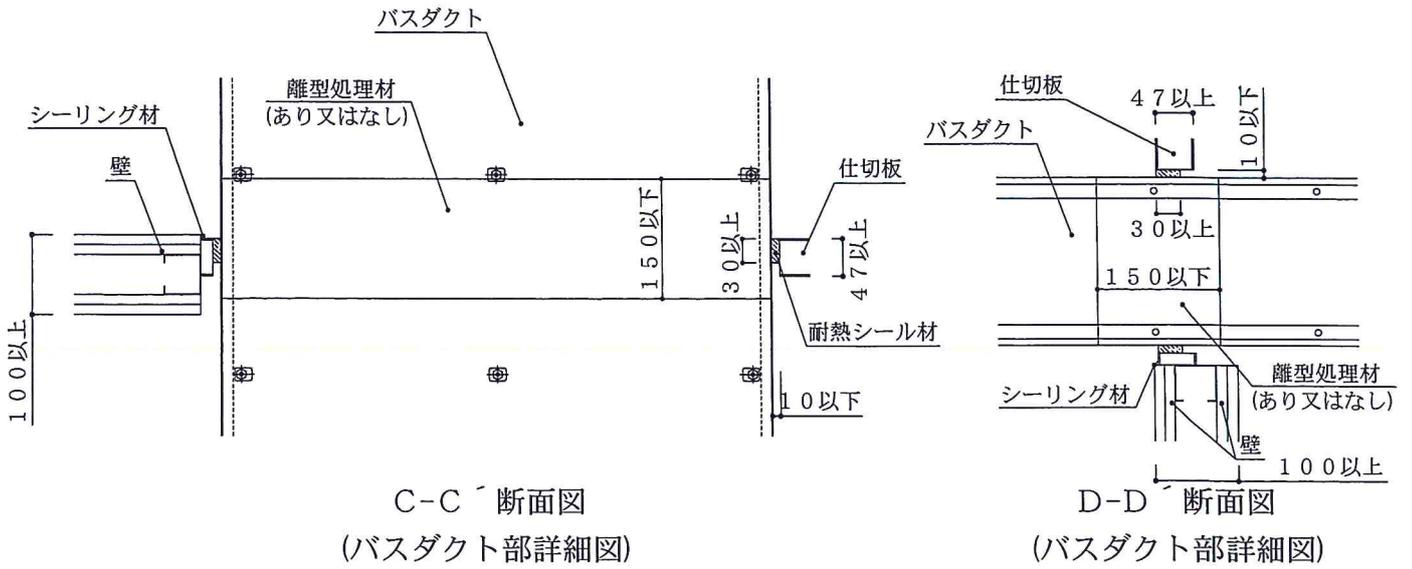


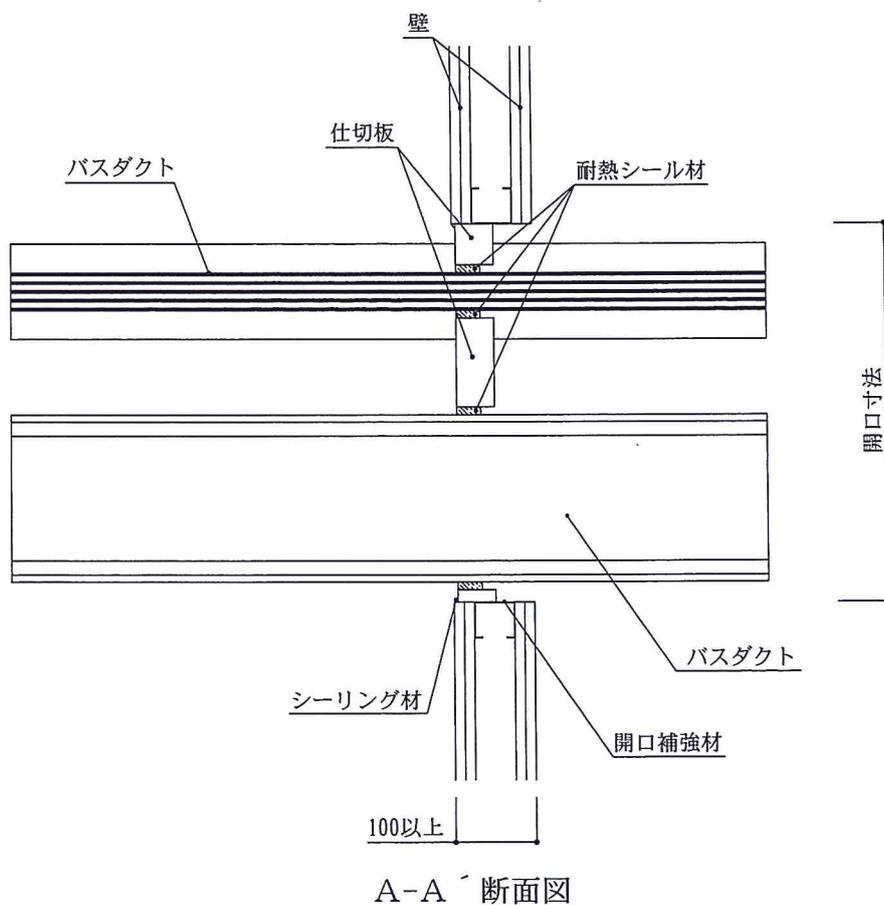
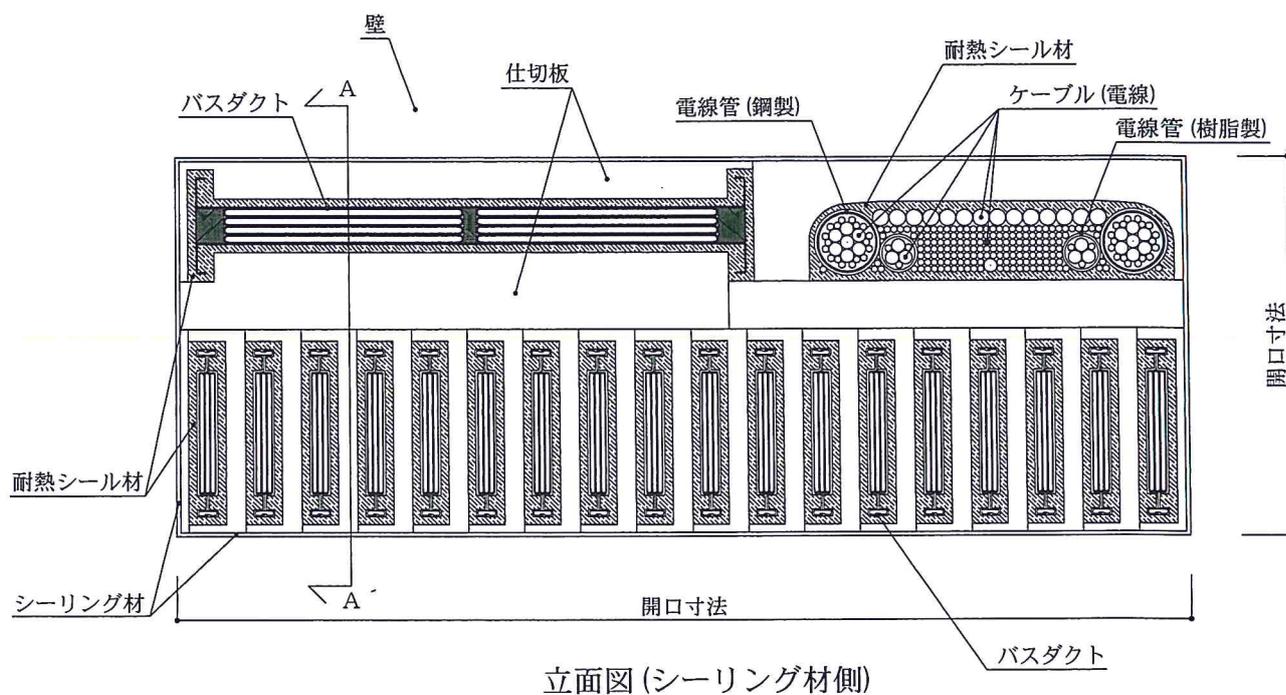
図3 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図4に示す。

施工は以下の手順で行う。

- (1) 開口部の確認及び清掃
開口面積、バスダクト、ケーブル占積率及び壁厚等が申請仕様に適合しているかどうか確認する。
- (2) 離型処理材の取り付け
必要に応じて、離型処理された粘着テープなどをバスダクトに巻きつける。バスダクトの凹凸によって隙間が発生する場合は耐熱シール材を充てんする。
- (3) 仕切板の切断及び加工
仕切板を開口部の寸法、貫通しているバスダクト、ケーブルの形状に合わせて切断する。その際、仕切板とバスダクト、ケーブル、電線管との隙間は10mm以下となるように調整する。ただしバスダクトの切欠部等では局部的に10mmを超えてもよい。
- (4) 仕切板の取付け
切断、加工された仕切板を設置する。
- (5) 耐熱シール材の充てん
ケーブル、バスダクトおよび電線管と仕切板との空隙がある場合は耐熱シール材を用いて密に充てんする。その場合、耐熱シール材は仕切板上面から奥行き30mm以上、幅10mm以下とする。
- (6) シーリング材の施工
開口部の仕切板と壁との接合部にシーリング材を施工する。



注) バスダクト・ケーブル・電線管の配置は一例を示す

図4 施工図